



2023年度国際交流基金助成事業

キルギス共和国日本語弁論大会実施報告

キルギス共和国日本語教師会 会長

ママーシェワ・ジィデグーリ



◆2023年4月15日にキルギス共和国国内日本語弁論大会が行われました。入門・初級者対象のA方式出場者は13名、中級以上のB方式は12名でした。会場はアラバエフ名称キルギス国立大学本館のホールで、明るくて聴衆も比較的多くてとても良かったです。出場者はA方式もB方式も日本語のレベルが高くて非常にいい発表ばかりでした。

◆私は今回、教師会長としては初めての大会でしたから最初から最後まで心配でたまりませんでした。自分自身が学生時代に国内、中央アジア、そしてCIS大会でスピーチしたことを思い出しながら、出場者一人一人が最後まで堂々と、そして無事に発表できるように祈っていました。

◆スピーチを途中で忘れて、緊張して最後まで発表できなくなった出場者もいましたが、ことばを忘れても、うまく発表できなくても、大会に参加したことがすばらしい経験になったのは確かです。スピーチするのは3分か5分だけですが、それを準備するの

にどれだけの時間をかけて、どれだけの表現や言葉を覚えたか、そのことを考えただけでも、「学び」という点から貴重な経験ですし、何より、日本語を学んでいる「仲間たち」と互いに自分の思いをシェアするというまたとない機会を得たわけですから。

◆実行委員にとっても学ぶことがたくさんありました。もちろん、不備な点、反省すべき点もたくさんありましたが、失敗の経験も、今後の活動に活かしていきたいと思います。

◆本大会の審査を引き受けてくださった審査員の皆様、アトラクションに参加してくださった日本語学習者の皆さん、出場者の応援に駆けつけてくださった皆さん、会場に集まってくださった皆様、また、本大会の会場をご提供くださったアラバエフ記念キルギス国立大学学長アブドラエヴァ・アイグーリ様、全ての方々に感謝申し上げます。

◆今後ともキルギスの日本語教育発展のため、皆様のご支援ご協力をお願いいたします。

B方式「中上級部門」結果

順位	氏名	演題	所属教育機関
1	トレグボワ・アリナ	私の中の多文化共生	ビシケク国立大学
2	マナソフ・ベクママット	キルギスのタコ	オシュ日本センター
3	ドゥワナエワ・メーリム	人生は音楽	ビシケク国立大学
4	コジョベコワ・アデリ	自分を守る箱	キルギス国立総合大学
5	マ스로フ・ドゥラット	研修中に学んだこと	キルギス国立大学
6	アスカルベック・サニラビカ	最も重要な資源	キルギス国立大学



A方式「初級部門」結果

順位	氏名	演題	所属教育機関
1	アルマズ・ウウル・ヌルドーロット	メエメエ	オシュ日本センター
2	アブデベコワ・メーリム	湖	ビシケク国立大学
3	オセレドコ・ダヤナ	遠くて近い日本	AUCA

1位 「私の中の多文化共生」

トレグボワ・アリーナ

私は、母親がロシア人、父親がキルギス人の、言ってみれば「多文化共生」の家庭で育ちました。子供の頃「あなたは何人（なにじん）？」と、よく聞かれました。質問した人に「当ててみてください」と言っても、誰も正確に言い当てることはできませんでした。

「あなたの民族は何ですか？」と質問されたら、今でも答えるのに困ってしまいます。私は自分がたった一つの民族に属しているとは思っていないからです。私は、ロシア的なものとキルギス的なもの両方を備えたインターナショナルな環境で育ち、まったく異なる文化、伝統、習慣を生まれた時から同時に吸収してきたのです。

新年を迎えたり、誕生日を祝ったりするのは、どの家庭でも同じですが、私たち家族は宗教的な祝日も大切にしています。ロシア正教の復活祭では伝統のケーキを焼いたり卵に色付けしたりします。オロゾアイトには肉料理を用意してボルソックを揚げます。

面白いことに、多くの人が私のことをタタール人か、ウズベク人か、あるいはタジク人だと思っています。私は小さいとき、自分について「何人（なにじん）？」と聞かれるたびに、キルギス人には自分のことをキルギス人だと答え、ロシア人にはロシア人だと答えていました。そのときの状況に応じて答えを変えることもありました。

IDカードの民族欄にはロシア人と書いてありますが、私は自分のことをキルギス系ロシア人でもあるしロシア系キルギス人でもあると思っています。一つには決めてほしくありません。私はナリン出身で、ナリンには祖父と親戚が住んでいます。ロシアとオランダにも親戚がいます。親戚どうして常に異文化交流をしているようなのです。

私は、「ラグマンのようだ」と言われることがあります。そう言われるのが私は好きです。それは、「ラグマンのように材料が多ければ多いほど美味しい」という意味だからです。一時期、高校に通っていたとき、一人の同級生が私に興味を持って



質問してきました。私がどこの国から来たのか、そして両親の属する民族が違う、ということを知ると、同級生はとても驚いて、私のことをもっと知りたがるようになりました。私のことを肯定的に捉えてくれているのがわかって嬉しくなりました。

大学では日本語と英語と韓国語を勉強しています。それぞれの言語と文化の特徴は違っていて、それぞれに面白いです。私は、自分が住んだことのある日本の文化、日本語、そして日本の人々が大好きです。日本の社会は私に人を尊重すること、相手に思いやりを持つこと、良心にしたがって正しいことをして決してごまかさないこと、そして感謝する気持ちが大切だということを教えてくれました。キルギスの社会は、年長者を敬うこと、伝統を尊重し自分自身に誇りを持つこと、仲間を大事にすることを教えてくれました。

両親の存在は、私に民族がなんであってみんなが平等に大切にされるべきだと教えてくれました。多文化共生の家庭で育ったおかげで、わかったことがあります。大事なものは、「何人（なにじん）なのか」ではなく、「どんな人間であるのか」なのです。



2位 「キルギスのタコ」 マナソフ・ベクママット

皆さん、キルギスにタコがいるのを知っていますか。「え、タコ？キルギスにタコなんているはずないよ」、「海なら分かるけど、イシククリ湖にいるの？いや、まさか」・・・皆さんも、キルギスどころか中央アジアにタコがいるなんて聞いたこともないでしょうね。でも、まずはボクの話聞いてください。

ボクは今年18歳になります。生まれて7か月の時、両親が離婚しました。母が父のギャンブルや言葉の暴力に耐えられなくなったからです。当時、父はカジノでお金を使い、家に帰ってきたら母と喧嘩ばかりしていたそうです。母は赤ん坊のボクを置いて家を出ました。父は借金返すために海外に出稼ぎに行っていました。それからずっとボクを育ててくれたのは祖父と祖母です。でも、子供時代はさみしい思いばかりしていました。

6年生が終わると、悪い仲間と付き合うようになりました。授業をサボったり、タバコを吸ったり、お酒を飲んだり、乱暴なことばかりして、ボクは、いわゆる「悪カギ」でした。あの頃は、人生最悪の年だったと思っています。

でも、ある時、急に自分が恥ずかしくなりました。そして、「このままではダメだ」と思いました。ボクは「もう絶対にお酒も、タバコもやらない」と、鏡に映った自分自身に誓いました。そして、悪い習慣を全部やめて、悪い仲間から抜け出すことにしました。決してかんたんなことではありませんでしたが、頑張っただけで誓いを守ることができました。ボクはもう9年生になっていました。でも、義務教育が終わってから次に何

をすればいいのか、考えても分かりません。学校をやめたいと思っていました。

そんな時、叔父が「何でも色々経験すれば、将来の目標が見えてくるものだ」と言って、ボクを職業専門学校に入学させ、学校以外にも次から次へとコースに放り込んだのです。まず日本語、次に数学のコース、そしてチェス、英語にロシア語、レスリングやボクシング、と続き、自動車の運転やコンピューターのコースにも通いました。医療ケア、縫い物、溶接、理容師、マッサージ、コックや大工のコースまでありました。

日本語以外は、どれも短期間しか勉強しませんでした。基礎は身につけることができました。おかげで今のボクには、自分でできること、自分が楽しめること、他の人を手伝えることがたくさんあるんです。

大工仕事は得意です。服に穴があいても自分で縫ってなおすことができます。友達の髪をセットしてあげられます。祖母にはマッサージしてあげられるし、祖父の介護も手伝えます。学校の専門は調理師で、おいしい料理が作れます。だから、キルギスのタコ、それはボクのことなんです。タコのように役にたつ手をボクは何本も持っているんです。

ボクは、自分の手の一本一本に将来の可能性があると信じています。この何本もの手を使って将来の本当の目標をつかもうと思っています。あれもこれも試しながら、最後に自分にとって一番大事な物を見つけます。専門学校を卒業したら、日本へ行って食品関連の企業で働いてみたいと思っています。

3位 「人生は音楽」 ドゥワナエワ・メーリム



そもそも音楽は、何なのかを考えてみました。私が思う音楽は、ただの音ではなく、心のこもった音のことです。ありきたりの音ならだれでも出せるけれど、音楽の音は、だれにでも出せるわけではありません。

音楽は、私にとって宝物のようなものです。悲しい時や気持ちがおちつかない時、音楽を聴くと安らかな気持ちになるからです。音楽を聴いている時は、うれしい気持ちになります。

私は、毎日自分が学んでいる言語に囲まれているのが好きです。例えば、日本に住んでいなければ、日本

語の勉強は難しいです。効果的な日本語の学び方を知る必要があります。音楽を聴くのはその一つなのです。ときには、ドラマやアニメを見るよりも大きな効果をもたらしてくれます。

小さいときから現在に至るまで、私は音楽がもたらしてくれる尽きることのない喜びを味わってきました。音楽を聴くと心が熱くなり、楽しさと喜びを感じುತ್ತりしてしまいます。落ち込んでいるときには気分を明るくしてくれます。ストレスで一日中神経をすり減らした時も、音楽を聴けば心からリラックスできます。

私は、宮野真守さんの『光射す方へ』という歌とメロディーが一番好きです。はじめてこの曲を聴いた時、なぜか涙が止まりませんでした。私はこの曲の歌詞の全部が素晴らしいと思うのですが、特に心に響いてくるフレーズが二つあります。一つは、「いつか光り輝くために、どこまでも羽ばたけるように…」という部分です。

そして、もう一つは、「こんなところで終われやしない、ここからまた始めるために、越えて進めよ！」という部分です。私はこの言葉に前へ進む力を与えてもらっています。この言葉は私に「ぜったいに諦めない！」と思わせてくれます。

『光射す方へ』という歌は、たとえ失敗しても、足がもつれても、前進し続けなければならないと言っています。高く飛べると信じることで、戦いをあきらめないこと、未来を信じて追いかけるのは正しいことだから、と歌っているのです。

私は日本の歌が大好きです。日本語で歌うのも好きです。私の日本語の勉強は日本の歌から始まりました。音楽がすべての始まりになりました。ですから私は、これまでと変わらず、歌を通してこれからもたくさんの方のことを知りたいと思っています。私の夢は、たくさんの方の言葉を学び、さまざまな言語で歌うことなのです。



4位 「自分を守る箱」 コジョベコワ・アデリ

私は、子供の頃、他人と話さない時期がありました。だれかの話を聞くと、内容は理解していたし、うなずきながら聞いていましたが、それに対して、ことばを返すことはありませんでした。なので、その時わたしは、周りの人に話すことができないと思われていました。実は、そのとき私は、周りの人に自分自身を理解されないことや、受け入れられないことを恐れていました。

成長して、少しは自分から言葉を発して周りとう交流するようになって、それはあまり変わりませんでした。友達と呼べる人もあまりできませんでした。私は自分の中に自分が閉じこもるための箱を作っていたんです。箱の中ではだれにも見られずに、自由に動き回ることができて、自由でした。私は一人でその箱の中にいるのが好きでした。

2020年はコロナウイルスのせいで、誰にとっても厳しい年だったと思います。でも実はその時、私は自分だけの時間を楽しんでいました。その時、自分のしたいことができました。歌ったり、踊ったり、音楽を聴いたり、アニメを見たり、ギターを弾いたりしました。一人じゃない時間を過ごすのは、両親と話をする、ほんの少しの時間だけでした。一人で過ごすことに慣れてしまって、知らない人と話す能力を失ったように感じてしまって、ちょっとこわくもなりました。

でもその後、大学に入って日本語や日本の文化を勉強し始めて、私は以前のように、他人との交流について心配しなくなりました。日本人のコミュニケーションの特徴に気づいたんです。それは、パーソナルスペースを尊重する姿勢と、話すときの礼儀作法です。日本人は誰かの話を聞くと、注意深く耳を傾け、邪魔をせず、うなずいて話を聞いていることを示します。それに気づいたとき、私はホットしました、私はあまり変な人じゃない、日本人も同じことをするからと安心しました。

コロナウイルスは、世界中に多くの悲しみをもたらしました。しかし、同時に秩序も生み出した。人々が近づきすぎず、安全のために個人的なスペースを侵害しないような雰囲気が作られました。今、世界はコロナウイルス以前の社会に戻ろうとしていますが、私は、ウイルスが蔓延していた時と同じく、一人一人が尊重されるべき自分のスペースを持つべきだと思います。

ただそれは、非常事態宣言を続けたほうが良いという意味ではありません。もともと文化的に、物理的にも心理的にもパーソナルスペースが狭い国であっても、私のように他人とスペースをとるために、自分の箱が必要な人もいます。誰もが快適に暮らせる社会のために、それぞれが適切な距離を保てれば良いと思います。

5位 「研修中に学んだこと」

マスロフ・ドゥラット



こんにちは、私の名前はドゥラットです。日本学院の4年生です。今回は、インターンシップ中に起こった出来事と、インターンシップで学んだことについてお話しします。

冬休みが終わり、8学期が始まり、私たちはインターンシップに向けて準備をしていました。様々な職業があり、クラスメートはKRJC、ジャパンスマイル、日本語講座など、色々な分野でインターンシップをしました。その中で、私はキルギスの日本語学校でインターンシップをすることになりました。とても興味を持ったからです。

それまでは学校や大学の先生から教えてもらうばかりでしたが、今度は自分が知っていることをどのように誰かに説明し、伝えるかを考え始めました。生徒から「ドゥラット先生」という言葉を聞くと、不安になります。「先生」という言葉はとても重く、その言葉には大きな責任が伴うからです。

先生とは、ガイドであり、教育者であり、心理学者であり、未来の発見者であり、愛と尊敬と人生の価値観を教える人です。先生は最高の資質を所有しています。専門的なテーマに関する情報を教えるだけでなく、人生や振る舞いについての問題に取り組み、子どもたちの世界観を広げながら人生における自分の居場所を見つける手助けをします。

冬休みが終わった後、私は新たな気持ちでインターンのための学校に行き、日本語の先生と出会い、練習を始めました。練習中、私は多くのことを学びました。先生はいろいろな課題を出しました。ある日、先生に用事があるため、1人で授業をするように言われ、どんなテーマで授業をし、どのような準備が必要か説明されました。それは、私にとって大きな挑戦でした。私は興奮しながら眠りにつき、次の日の授業に備えました。

1人で授業をする日になりました。私は早めに学校へ行きました。ベルが授業の開始を告げると、生徒たちは教室に入ってきて座り、授業の準備を始めました。

最初の授業は5年生の授業でした。挨拶をして、「朝は何時に起きましたか」「お昼は何を食べましたか、飲みましたか」「今日の天気はどうですか」など簡単な質問をして、授業をを開始しました。宿題のチェックを始めると、生徒たちはもう聞いていません。目頭が熱くなった。彼らは、私の言うことを聞かずに遊んでいました。

もし、そこで何もしなければ、私の授業は破綻したまま終わったかもしれません。しかし、そこで私は、彼らにお金を渡そうと思いつきました。お金が嫌いな人なんていませんよね。人間、お金に関しては何でもありません。

私は彼らに渡すお金はあまりないし、お金に困らないサラリーマンでもない。マルシュルートカではなく、バスに乗り、1円単位でお金を数える学生です。私は、日本からお土産として持ってきた日本円だけを渡すことにしました。いつもカバンの中に入っていたのです。私は自分のコインを持って、今日の授業に最も積極的に参加し、課題をこなした3人の子どもたちに配ることにしました。

授業の最後に、新しいトピックを説明し、そのトピックに関するプレゼンテーションを行い、上位3人にコインを渡しました。私の日本円はすべて無くなりました。

その日私は、本物の教師とは難しい職業であることを心から感じた。生徒一人ひとりと接する必要がある、また生徒たちが気に入るようなテーマを探りながら、彼らに伝わる分かりやすい言葉を見つけなければなりません。これまで、教師は簡単な職業だと思っていた私の考えは、完全に変わりました。そして、インターンシップとして働きながら、生徒と共通言語を見つけ、より良い接し方で授業ができるようになりました。

このような困難で時間のかかる職業に就いている先生方に感謝します。



6位 「最も重要な資源」 アスカルベック・サニラビカ

4 回生のアスカルベック・サニラビカと申します。このエッセイコンテストに参加する機会を与えてくださった主催者、審査員の皆様に感謝いたします。このようなコンテストは、学生の自己啓発に役立つと信じています。

私は、エッセイを書く機会があれば、いつも人々に考えさせたり、重要なことに気づかせたりするようなテーマを取り上げています。そして今日は、この機会を利用して、私が人間の生活で本当に大切だと思うことを、ここにいる皆さんに伝えたいと思います。人間にとって最も貴重な資源のひとつについてです。

人間は常に発展することを望んできました。そのために、学校や大学が開設されるようになりました。

情報の価値は年々高まっています。そして、私たちが持っている、競争力を高める情報のほとんどは、教育機関で得ることができます。そして、その情報の源となるのが教師です。

先生というのは、人間にとって最も重要な資源の一つだと思います。今は自分で教育できる時代だと言われますが、教育やコミュニケーション能力、自分の可能性を引き出すには、人間のコントロールやサポートが必要です。

教師は生徒の理解度を察知し、それに合わせたり、さまざまなアプローチで情報を伝えようとします。そのため、教師は人工知能に取って代わられることはないと思います。

モンテニューの言葉にあるように、「自分を学ぶよりも、他人を教える方がより多くの知性を必要とする」のです。

2020年、私はプログラミングのインストラクターとしての自分を試しました。そして、このモンテニューの言葉は、私自身にも実感として伝わってきました。授業計画を立てる際には、自分が学んできたことを、説明する人の立場に立って、繰り返し説明する必要がありました。

一回の授業のために、一晩中、どうすれば効果的に知識を伝えられるかを考えて準備する必要がありました。生徒たちは40代で、ほとんどが村の出身。コンピュータの使い方に関する知識は、ほとんどないに等しい。

しかし、この全く新しい技術を学ぼうとする彼らの意欲と決意に、私は満足しています。宿題をやらない日は、私が叱らなければなりません。みんな40代だったので、本当にかわいそうで、すぐにカメラとマイクを切って、笑って謝りました

そして、真剣な顔でカメラを回し、レッスンを続行しました。あるレッスンでは、ファイルを開き、その中で新しい文書を開くという最も簡単な作業をさせました。

まさか、「ファイルを作るには、パソコンの絵、つまり"マイコンピュター"のボタンをクリックしなければならない」と伝えることになるとは思ってもありませんでした。

この体験は大変でしたが、最高の思い出として残りました。彼女たちの努力のおかげで、私たちは望む結果を得ることができ、彼女たちは新しいチャンスを見出すことができました。

これで言いたいのは、教育には先生も生徒も重要な役割を担っているということです。私たちは、自分の努力と学ぶ意欲で先生を助けることができます。そうすれば、先生の仕事も楽になり、私たちの学習もより効果的なものになるはずで。努力と時間を惜しまず、忍耐強く、粘り強く私たちを教えてくれた先生を尊敬するよう、皆さんにお勧めしたいと思います。



私が感じた3年間の弁論大会の変化

国際交流基金 日本語専門家
キルギス共和国日本人材開発センター派遣
坂下 太一

◆私は2020年以降、毎年この弁論大会の審査員業務のお引き受けしており、今回が実に4回目の経験となりました。2020年当時と現在を比較すると様々な変化があったように思われます。初めて審査員業務をお引き受けした2020年度大会は新型コロナウイルスの感染拡大を防ぐため、現在のような対面方式ではなく、事前録画による発表でした、当時私はまだ日本に滞在中で、キルギス人の学生のみなさんの発音が非常に美しいことに驚かされたことを今でも覚えています。

◆しかしこの3年間で、優秀だと思っていた学生の発表も更に洗練されたものが多くなりました。まずは弁論の構成ですが、聞き手が理解しやすくなるように、また、興味をひかれるような工夫が多く見られるようになりました。この点で今年度特に優れていたのは「キルギスのタコ」を発表してくれたベクママトさんです。「『キルギスのタコ』とは何だろうか？どういう意味だろうか？」と最後まで興味を持って聞くことができました。ベクママトさんの発表だけでなく、どこかネガティブな発表が多かったスピーチの内容が前向きで、明るく前向きなものが多くなったようにも思われます。

◆深刻なテーマを取り扱う時でも、決して独り語りにならず、ポーズ、ジェスチャーなどを工夫したり、スピーチの表現方法を工夫したりと、聞き手を意識した発表が目立つようになりました。今年度発表してくれたトレグボワ・アリーナさんの「私の中の多文化共生」、コジョベコワ・アデリさんの「自分を守る箱」などは、難しいテーマでしたが、お二人の発表は特に表現力が優れており、聞き手に聞いてもらいたいこと、届けたいメッセージがしっかりと伝わってきました。今大会ではお二人の発表以外にも、メッセージ性の高い発表が非常に多かったように思われます。

◆相手を意識して話すということはコミュニケーションの基本にあたります。スピーチとコミュニケーションを別物だと考えることもできますが、私はこの点で、弁論発表をするための努力がコミュニケーションスキルの向上にも繋がると考えています。

◆最後に、今大会の弁論大会開会時に、ジィデグーリ会長から「この弁論大会は学生時代の宝物のような思い出である」というお言葉がありました。是非今後もキルギスのみなさんにとって宝物のような存在であり続けることを心からお祈りしています。



出場者の感想 ①

トレグボワ・アリーナ
ビシケク国立大学 東洋国際関係学部 3年生

◆弁論大会に参加するのは今回が初めてでした。留学先の大学の他の受験生から選ばれたことで、より本格的な準備が始まりました。おもしろかったです。しかし、そこで問題にぶつかった。日本語の話し方に訛りがあったんです。私はとても動揺してしまい、どうしたらいいかわからなくなりました。そして、勝ちたかったら、発音を良くする努力をしなければならぬと思いました。弁論大会に向けて、熱心に準備を始めました。毎日、弁論大会の準備をしました。シャトルバスの中、勉強の休憩時間、家、街中。私は人々が私についてどう思ったか気にしませんでした。◆この重要なイベントに向けて準備することが重要だったのです。私は友人や先生のアドバイスに注意深く耳を傾けました。私は毎回私のスピーチをより良く、より良く改善しました。一生懸命、真面目に努力しました。弁論大会の日が来たとき、私は心配していました。しかし同時に、私は100%準備ができていたと感じました。1位を獲得したと名前を呼ばれたときは、感動と嬉しさで胸がいっぱいになりました。とても嬉しかったです。弁論大会に参加する機会があったことに非常に感謝しています。

出場者の感想 ②
マナソフ・ベクママト
オシュ日本センター

◆「私はキルギスのタコです。私は今18歳で多くのことができるようになりました。これは祖父と祖母と叔父のおかげです。私の両親は私が7カ月の時離婚して、その後、ずっと僕の世話をしてくれたのは祖父と祖母です。祖父と祖母にとっても感謝しています。私は今年オシュ市で専門学校を卒業しました。専門は調理師です。料理を作るのが大好きです。髪をセットすることもできるし、マッサージ、大工、溶接、そして日本語もできます。自慢ですが、私はキルギスのタコだと自分のことを呼ぶようにしています。」

◆これは、私が2023年4月15日にビシケクのアラバエフ名称キルギス国立大学で行われた「キルギス共和国国内日本語弁論大会」で発表した私のスピーチです。ジィデ先生と毎日毎日くりかえし練習してやっと上手に発表できるようになったのです。やっぱりしっかり練習しないと結果があまりよくないということを弁論大会のおかげでわかりました。2位になるなんて全く想像もしていませんでした。涙が出るぐらいうれしかったです。参加して本当によかったです。いっぱい練習した甲斐があった、と心の中で思いました。

◆日本語弁論大会は私の18歳までの人生で大きなWIN→ПОБЕДА→ЖЕҢИШになりました。入賞できて、祖父と祖母の期待にひとつ応えられたと思っています。

◆チョンアタ、チョンアパ、育ててくれてありがとう！そして、大好きなジィデ先生、ありがとうございました！



出場者の感想 ③
ドゥワナエワ・メーリム
ビシケク国立大学 東洋国際関係学部 3年生

◆日本語に出会ったきっかけは、日本の音楽でした。それが私の弁論大会のテーマにもなりました。

◆今年の4月、私は「共和国日本語弁論大会」に参加する機会を得ました。共和国の弁論大会の参加者は、高い日本語能力と芸術性を示しました。仲間は、名誉ある賞を獲得することができました。私は3位を獲得しました。



◆その結果、私は5月の「中央アジア日本語弁論大会」にも参加することができ、中央アジアの国々であるカザフスタン、ウズベキスタン、タジキスタン、トルクメニスタン、キルギスの中で18人の参加者の中で4位を獲得しました。

◆コンテストで得た経験は計り知れません。それによって、私は日本語力を向上させるだけでなく、数々の素晴らしい経験や出会いを得ることができました。様々なテーマで参加者のスピーチを聞くことは、私にとって素晴らしい経験と成長の動機づけとなりました。すべてのスピーチは最高レベルで行われ、私はただ見るだけでなく、このような大規模なイベントの参加者になることができて幸せです！

出場者の感想 ④ **アルマズ・ウウル・ヌルドーロット** **オシュ日本センター**

◆「メエメエ」、「メエメエ」これは何の鳴き声でしょうか。もちろん、羊の鳴き声です。皆さん、キルギスと言えば、羊のことが思い浮かぶでしょう。私はオシュ州のアライという地区からです。アライ地区ではキルギスの有名な王女のクルマンジャンダットカが生まれました。そんな地区を私は誇りに思っています。お爺さんにいつも「羊を切れない男は男ではない」といつも言われています。私は羊が大好きです。でも、切るのはあまり好きではないですが、伝統ですから、仕方がないですね。

◆私は2023年4月15日にビシケクで行われたキルギス共和国日本語弁論大会のA方式(初級レベル)に参加する機会を得ました。初めて自分が日本語で発表しましたので本当に緊張しました。しかし、結果は1位でしたのでびっくりしました。なんでも結果が一番大事ですね。これは大会までにしっかり練習したおかげでだと思います。参加するだけで私は満足しましたが、優勝して本当に自身が出てきました。

スピーチでは自分の経験、好きなこと、身近なことについて話すことが大切だとジィデ先生に教えられてきました。ですから、私は自分のどんな環境で育てられてきたのか、好きなことは何か、どんな考えを持っているのかについてお話をしました。こんな素晴らしいチャンスを与えてくれた日本語教師会の先生方に、そしてジィデ先生に感謝をしています。ありがとうございます。



キルギス共和国日本語教師会は、8月19日（土）と20日（日）の2日間の日程で

「第7回キルギス日本学・日本語教育国際研究大会」を開催いたします。

本大会では、広島大学 森戸国際高等教育学院 准教授の西條結人先生の基調講演、キルギスをはじめ世界各地で活躍する日本語教育研究者、キルギスや中央アジアにゆかりのある方々の実践報告・研究発表を予定しています。

共 催：キルギス共和国日本語教師会、
カラリエフ記念ビシケク国立大学

後 援：在キルギス共和国日本国大使館、
国際協力機構(JICA)キルギス共和国事務所

2023

第7回キルギス日本学・ 日本語教育国際研究大会

大会1日目
2023年8月19日（土）
10:00AM
(キルギス時間)

プログラム

基調講演テーマ：「説得の戦略」に
着目した日本語スピーチの作成と指導」
広島大学 森戸国際高等教育学院 准教授
西條 結人氏

研究発表・実践報告①

大会2日目
2023年8月20日（日）
10:00AM
(キルギス時間)

研究発表・実践報告②

大会参加費：無料(要事前申し込み)

ハイブリッド開催（対面・オンライン併用）

対面会場 ビシケク国立大学 メインキャンパス本館2階
カンファレンスホール
(57 CHINGYZ AJTMATOV AVENUE, BISHKEK STATE UNIVERSITY)

オンライン
会場 ZOOMリアルタイム配信

お申込み
参加を希望される方は、上記のQRコードよりお申し込みください。
参加申込締切：2023年8月17日（木）まで
KAJLTウェブサイト：<https://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdo.com/>
【お問合せ先】E-mail: kyrgyzkenkyuutaikai@gmail.com

開催日時：

2023年8月19日（土）～20日（日）
両日とも 10:00 開始（キルギス時間）
ビシケク国立大学との共催

後 援：

在キルギス共和国日本国大使館
JICA キルギス共和国事務所（申請中）

開催形態：

ハイブリッド開催（対面・オンライン併用）
・対面会場：ビシケク国立大学本館2階
・オンライン会場：Zoom リアルタイム配信

*参加登録者には招待リンクをお送りします

参加費：無料

参加申し込み締め切り：8月17日

下記 KAJLT HP をご参照ください

お問い合わせ：

kyrgyzkenkyuutaikai@gmail.com

キルギス共和国日本語教師会会報 第67号（2023年7月20日発行）

編集：キルギス共和国日本語教師会広報委員会《会報編集部》



キルギス共和国日本語教師会事務局 E-mail: kajlt.jimukyoku@gmail.com

賛助会事務局 E-mail: kyoshikai.sanjokai.jimukyoku@gmail.com

会報バックナンバー https://www.evernote.com/pub/tm0y/kyrgyz_vestnik

KAJLT HP <http://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdo.com>

ウィキペディア <https://ja.wikipedia.org/wiki/キルギス共和国日本語教師会>

Facebook https://www.facebook.com/JLteachers.association.KR?ref=aymt_homepage_panel

<http://jlkyoushikai-kyrgyz.jimdo.com/紀要-キルギス日本語教育研究/バックナンバー/>

Вестник Ассоциации преподавателей японского языка Кыргызской Республики
№ 67 от 20.07.2023 г.